

第2回 大宮公園グランドデザイン検討委員会 議事要旨

- この委員会は重要なチャレンジであり、(大宮公園を) 将来の展望を持ち、県民共有の財産としていくために、基本的な課題への対応と次の時代を見据える、両面で検討していく。
- 公園は極めて多面的で他の要素もあるが、資料6頁で、「緑地、空間」、「歴史」、「環境」、「スポーツ」、「観光」というもので、まとめ直している。
- オープンスペースには命を含む緑地と、屋上やグラウンドなどの空間があり、両方重なるのが公園の本質である。
- 大宮公園は氷川神社に公園が次々と加わり、第二、第三と称して1つの公園という自覚がある。
- 全体で67ヘクタールのまとまりが大事で、ニューヨークのセントラルパークの300数ヘクタールと比べれば小さいが、日比谷公園は16ヘクタール程度。首都圏の公園としては狭くはない。周辺には農地も残っており、第二、第三と一体とし、さらに見沼の水辺を加えると相当な空間となる。
- 第一、第二、第三と切り分けるのではなく、大宮公園は3つ合わせたものという理解と認識が必要。まとまったスケール、広さには多面性と可能性がある。
- 大宮公園は元々全部氷川神社であり、言わば地域の共有財産。昔は氏子が支えたわけで、埼玉県民が氏子のつもりになれば良く、両方がそれで共生する。元々大宮公園は氷川公園と言った時代があり、氷川神社がコアである。
- 基本的にここは氷川神社の境内外である。これは事実。
- 参道は重要で、神社への参拝は参道を歩く中で気分が変わる構成になっている。
- 氷川参道は2キロあり、全て氷川神社で管理している。地元の方、県、さいたま市にも力を借りている。地域住民の方には参道の木がありがたい反面、落ち葉や虫の苦情をいただいている。台風の倒木の不安に対する意見もあり、管理するのは大変である。
- 参道は、2キロを歩くことで参拝する心を整え、心をきれいにしてお祈りをするという意味がある。神社に参拝するための道として大事。公園に行く方、アルディージャの試合を見に行く方も参道を通っている。競輪の方も昔はだいぶ参道を使っていた。
- 参道があることで氷川神社の威厳が保たれている。さらに、参道は大宮公園の玄関、アプローチとしても活用できる有効なものだと考えている。参道に商店やカフェなど店を出す観光地化の話が良く出るが、私は反対である。参道はあくまでも参拝するため、祈りのための道である。
- 大宮公園や一の宮通り等の横丁に観光地としての店を出し、それぞれの特徴をしっかりと打ち出す。公園は公園、神社は神社としてのすみ分けが、今後の社会では大切なのではないか。
- 参道に露天が並んで縁日があるとワクワクする。日本一長い参道沿いに、子どもも高齢者も楽しめるすてきな店がいろいろあれば、どれほど売り物になるかと単純に思う。

- お土産屋が並んでいたりすると、神社らしくないと言われる。
- 元々住んでいる方の大宮公園のイメージは第一公園になる。一本化して名前は大宮公園が良いと言っている。
- 第一公園は、桜、歴史、記憶、スポーツ、ボートなどの風景。
- 第二公園はアジサイ、梅も咲き非常に自然豊かで、子どものピクニック。
- 第三公園は、見沼や、田んぼに近く、芝生公園があって子どもたちのスポーツのイメージ。
- 別々ではなく大宮公園という1つのもので考えたほうがいいが、第二、第三には特にニックネームみたいな暖かい表現の仕方もあるのではないかという話も出ていた。
- 大宮に行けば、氷川神社のお参り、公園でのくつろぎや楽しみ、帰りにいろんなお店で買い物、そういう楽しみ方ができる方が良い。
- 2キロの参道を活かしながら、街の中の賑わいにどの様に誘導するかを考えることで、回遊するお客さんが増え、まち全体が活性化するという意見が大勢を占めている。
- 第一公園は、地元ではよそ行きの公園と感じている。ボート池があってデートコースとして利用していた。つまり、完全に県外の人に来てもらいたい。
- 鳥観図（帝都郊外唯一の理想郷大宮鳥瞰図 昭和9年）は、大宮は帝都一として箱根や伊豆と同じくらい凄いぞという世界感を表現し、観光客を誘致しようとするものだった。
- 3つ目の話題として、エコロジーの考え方。人間の体を血管が流れているように、都市の健康も敷地全体に血管が流れていないと駄目。それが緑であり、水である。環境保全により、水があれば人間の心も癒やされ、虫や鳥もいる命のある世界ができる。氷川の名の由来は湧水との説もあり、宗教性よりもっと大きな環境の基本的な骨格になる。
- 水源の氷川から見沼へとずっと水系をたどると、全体で生き物エコロジーのシステムがある。
- 「すいけい」には2つあり、一つは「水系」。成長するためには自然との関係が大事。もう一つは「水景」で景観。水のある風景には大変な値打ちがある。生きている水で、水遊びができればなお良い。これらは全体として水だが、神社の命として抜けているのは後ろの社叢、森。本来、神社は神籬（ひもろぎ）なのに薄い。
- 森に流れはなくて良いが、森と公園の緑地の間に水の流れや滝があると良い。水があると人が集まり、子どもも大人も水の流れを見て心が和やかになり、憩いの場となる。そういう意味では森の外に水が流れていると公園らしく、社叢らしいと思う。
- 神社には森が基本的に必要で、本来はそれが神様である。少し厄介だが、暗いという人も今の時代はいる。
- 暗いという声と汚いという声がある。アカマツもサクラもそれぞれ良いが、きれいに整理をされていない。
- 木を切っても根が残っていたりすることで、歴史がある大宮公園にもかかわらず、きれいに整備されていないという声が結構出ている。
- ランドデザインの検討にあたっては、アカマツやサクラがどのぐらいの数で、どの位置にどう置くかということまで考えていく必要があるのではないかと意見も出ていた。

- 暗いという話や若干公園としては汚いという話が出ているが、森は間違いなく必要。
- 氷川神社までは、参道も含めてきれいに整っているの、行きたいという気持ちになる。
- その先の公園は、売店もあるが期待の売店ではなく、アカマツを含めて景観が悪いので、参拝客は皆引き返す。
- 1 つは、全体の計画が元からデザインされていないから景観的に汚い。サクラやマツは素晴らしく、切るべきではなく、どう生かすかというデザインが不足しているので、すべてが汚く見える。
- 氷川神社からは坂があり、カーブしていて先に何があるか見えない。坂を上がると最初に売店があり、どうしても大宮公園と言えば売店が古いという、それがイメージになっているのではないかという話はある。
- 大宮公園でゴザを敷いて本を読む企画では皆寝転がって本を読んだ。アンケートではもっとやりたい、寝転がりたいたいと出ている。ただ木の根を守る必要があるという大宮公園の考え方も十分解る。
- ヨガは第一と第二公園。ラジオ体操は第一と第三公園で行われている。
- （社叢林を）禁足地として囲い込んではいないのか。
- 氷川神社の裏は囲いがあり、2〜3 ヘクタールぐらいある。そこはほとんど手を付けておらず、落葉したらそのまま葉が積もる。
- ここは彩の国のスポーツイベントの拠点。競技スポーツだけではなく、寝転がったり、走り回ったりも含めたアクティブなレクリエーション、あるいはスポーツレクリエーションと言われるものを含む、かなり幅広く捉えた拠点になる。今はすでに施設化されたハードの施設があり、そういうものをどう考えるか。
- 今の世の中の流れを見ても、根本的にスポーツとそれ以外の境目が、極めて曖昧になっていくと感じる。
- IOC がオリンピック競技にサーフィンやスケボーを入れているが、新たに加わる競技は、スタジアムではなく路上でやっているものも入ってきているのが大きな特徴。今後さらにスタジアム型でないものが入ってくると予想される。
- オリンピックは高齢化していて、陸上やレスリングが好きなのは高齢の人が多く。若い人は興味がないので、若い人にはサーフィンやスケボーだろうというので競技に入ってきている。
- スポーツにフォーカスした公園では、何かを建築してしまうと、そのスポーツ以外でなくなる縛りを作る恐れがある。
- サッカーは、100 年は続くという考え方もある。100 年前だと間違いなく野球場だったのだが、世界的にサッカーになるのか、ラグビーになるのか、一体何のスポーツが天下を取っているか分からない。
- 大きな方向は、見るスポーツとするスポーツがあって、見るスポーツはスタジアム型でどんどん巨大化していき、するスポーツはどんどん中から外へ出ていって、アウトドアのものが増えていくのではないか。
- スポーツで大宮公園を見るときに、スタジアムがあって、見るスポーツに観客が沢山集

まる形と、そこで自然に皆がスポーツをしている風景がもちろん共存できるが、この 2 つの大きく違う方向があると思っている。

- 公園でもスポーツ施設の運営を請け負う法人を作り、自分たちで運営できる形とすることができると思う。
- 自主運営されていることが、景観にしても何にしても保つ上ですごく重要である。
- 決め打ちしない範囲を大きく取りつつ、この先 10 年、20 年ぐらいはたぶんこのへんではないかという地図のように、上手にポートフォリオを組むのが、昨今のスポーツの流れを見ていていいのではないか。
- 地元の意見は、公園は誰でも使える、だが、あの施設は非日常的な施設だ。
- 今まで歴史的にサッカーも野球も競輪も非日常的な施設を作ってやってきている。非日常的な施設はどこかに新築するのか改装するのかはあるが、歴史的にそういう歴史を背負っており、その考え方を踏襲して施設は作るべきだという意見は出ている。
- 地元からは、サッカーは客が来ているので、スタジアムはもっと大きくしたほうがいいという話も出ている。
- 全国からの集客を狙うのか、地域の人たちに楽しんでもらうのか。地域とは埼玉県民で、そういうものにするか。あるいはそれを一緒に、ゾーンを変えて楽しめるようにするのか。
- e スポーツは今後盛んになると思う。しかも 2040 年代には 3 分の 1 が 65 歳以上になり、あまり体を動かさなくてもバーチャルなスポーツで楽しめるようなものが大宮公園の中にそういうゾーンがあれば、結構全国からも人が集まるのではないか。大宮公園といえどこのスポーツだなという目玉になるものができたらいいなと思う。
- 第二、第三がなかったために第一に施設が凝縮したが、第二はテニスの他、スケボーやバスケぐらいであまり使われておらず、非常にもったいない。第一は凝縮しているのに誰も使っていないように見えてしまう。イベントのときしか使われていない。
- 周辺であるもの、賄えるものはいらぬのではという気がする。スポーツがあるといいなと思う一方、静かな空気とまた違う空気になる恐れがある。
- どんだんいろんなものが出てくる中で、今のテクノロジーで最適だと思うこと自体どうかという意味で、余白が大きいほうがいいと思う。
- 大型施設があまりにも多すぎ。他にあるならここでなくてもいいものがある。
- 弓道は神社にも関わる神事であり、武道だと思う。弓道の矢の中は神様がいらると言われているぐらいで、日本の歴史の中でとても大事なものなので、弓道はあってもいいと思う。
- 第二公園は、テニスコートと軟式野球場と駐車場と書いてほしい。
- スポーツ施設では、競輪場をどうにかしたい。第二公園エリアは活用できていない土地だと思っており、生かしたいのであれば、第二公園へという思いもある。
- 競輪は市民目線から言うと 100 年後まではどうなのかと思う。ギャンブルの在り方が見通せないので、今後要らないのではと思う。
- 数字をチェックすると競輪は生き残れない、耐えられないと思う。高齢化が著しく高い

競技なので、資金が回らなくなると思う。

- デザインの中でゾーニングはしてはいけない。
- 一景というのがあり、深く入ると 10 景、100 景あるという全体をよく見て、何を目的に何をするかという見せ方が必要。
- スポーツはスポーツゾーンというのを作って、そこできっちり配置する。何気なくカフェやバーがあり、すんなり皆が入っていく。それが一体化。そこに日本庭園があっても全部一体のものであって、湧水とかあり、その湧水が目的であれば、そこは一体であって一つの景色が見える。
- 日本のデザインはレイアウトにすぎない。全体の景観が見えない。
- 一つの園路を作るにも、園路そのものが景観として見えなければならない。そこには遠近の構図もあり、曲線をどういう意味で出しているか、意味も考えなければならない。日本の場合は狭いから特に曲線で遠近を出す手法が活用される。
- 個々にどうのこうのは今の段階ではいいと思うが、最終的には全体があって個々の問題であることを常に前提にしておかないと、文章だけで終わってしまう。
- どこでやっても同じ一つの概念が載っている。そうしたことから、文章が説明的であると、デザインが非常におろそかになる可能性がある。
- ゾーニングという言葉が時々出ていたが、ゾーニングは縁を決めてしまう。
- 委員が言うように、確かに全体をデザインしなければならない。日本の場合は貧困で、その原因の一つは分けてしまうこと。体育施設は公園課ではなく教育委員会が担当。申し込みから何から全部。公園の中での完全な貸し施設、レンタルスペースとなっている。
- 今は多面性を 5 つだけ挙げて、それごとに議論をしている。それを総合するのは後のデザイン。
- 個人の意見だが、ちょっと走って、その場でコーヒーを買って飲んで、ふらっと歩いていったところでヨガをするみたいな感じのスポーツのほうが、ここではふさわしいのではないか。
- 何かを着込んで行って本気でスポーツをするより、公園の中になじむ系のスポーツにフォーカスしたほうが何となく行ったときの空気とか、今日のお話を聞きながらの感じでいくといいのではという意味で、スポーツ専門の建物は極力少なめにした方がいい気がする。
- 今、顔になっているスポーツもあり、これも考えなければならない、そのバランスが大事。
- 地域に愛されているものは残してもいいかもしれない。
- 集客施設だけのピストン移動ではなくて、それに行くまでの時間と見た後の時間をエンジョイできるような関係性を付けないといけない。今の施設はチケットを買って入って、帰ってしまうわけで、もっとゆったりした、それこそカフェも必要ということまで考えないといけない。
- 公園の中にカフェがあったほうがいい。
- 観光も非常に重要で、(大宮公園は) 元々は観光のために作った空間である。しかし、今

はそれほど埼玉県の特徴的な観光地ではない。これからは都市観光的にも、広大な見沼を控えた意味でも、田園的ないい環境を持っており、歴史的な意味もあるからそれをどうつなぐか。

- 県民活動の拠点でもあり、それが世界にも発信されるのが好ましいと思うが、意外と大変でプロデューサーがしっかりいなければならないし、ある種 NPO や関連団体がうまく融合してくれないといけないので、参加型にするためにはそのためのソフトウェアが重要。
- 100年先は予測が難しいため「観光の未来需要予測研究」では、2030年を落としどころとしてまとめている。
- 国内の観光宿泊旅行は残念ながら減少。今は延べ宿泊人数の1億5,000万人、それが1億3,000万人ぐらいに下がる。泊数を見ると2億5,000万泊が2億2,000万泊になる。
- 逆に著しく増えるのは訪日外国人。2022年ぐらいに日本人と外国人の泊数が一緒になる。2人宿泊施設に泊まっていると、1人は外国人、1人は日本人、こういう状況になることが予測されている。
- 日本人の宿泊旅行コンテンツ需要は、温泉、神社、仏閣がこれから増え、今、我々が考えているニーズは下がっていく。
- 宿泊施設、食事、温泉が日本人の旅行の三種の神器
- （外国人は）体験とか異文化体験、そこに行かないと食べられない食べ物、そういう要素が求められ、自己成長や知識増進に関することがすごく大きい。
- 韓国人は日本人の日常やディープな日本の地域に結構関心がある。
- ドイツ人は富士山、美術館、アートという文化的な意欲が高い。
- アメリカ人などはアクティビティが非常に高い。
- 日本人は旅行のときの体験ニーズはすごく低く、宿と食事と温泉になる。しかし、外国人はせっかく日本に来たから体験したい、というニーズがどの国でも結構高い。特に文化体験、和体験が高い。
- 地域の人を楽しんでいるところに外国人も来るようになる。これは異文化体験、住んでいる人の日常を知りたいということで、大宮周辺の人たちがこの公園をどのようにライフスタイルの中に取り入れて、すごく豊かな時間を費やしているのか、ということが見えるとおのずと外国人はそこに行きたくなる。
- 特に注目されるのは、コミュニケーション。外国人が日本に来る目的は交流、コミュニケーションをしたいから。日本人もサードプレイスの場所を求めて行くとすると、コミュニケーションみたいな一つの文化に入っていく。
- 例えば、ニューヨークに行ったらセントラルパーク。ロンドンだったらハイド・パークとか。日本だったら大宮グランドパーク。そういう位置付けになるのが、観光的には一番分かりやすい。
- そのためにどうすればいいかを考えると、一つはやっぱり地域に愛される公園でないと観光的な価値さえもない。愛されているとは、生活の中にどう取り入れられているかということ。朝の時間の朝活みたいなことにこの公園の利用者はどう使っているか、地元

の人たちが考えながら楽しく使っているということに、すごくいいイメージが湧くかなと思う。

- 神事、氷川神社、文化、水は日本らしいキーワードであり、シンボルとして不可欠ではないか。また、デザインされた景観は日本のシンボルの公園なら絶対必要になる。
- 観光的にいうと大宮はハブの場所なのだろう。外国人からすると一度日本に降り立って最初に大宮に泊まり、その後、東北、北海道、あるいは秋田も山形も、さらには長野も金沢もさまざまなところに行ける。一回ここで泊まってもらうイメージを意識した方がいいと感じる。
- 日常と非日常を明確に出すこと、そして、世界の中での大宮公園の位置付けを考える上で、この神社と公園とのメリハリを付け、それぞれが地域に愛されているということが表現できるといい。
- 今後は大宮駅周辺が非常に重要なハブになっていくと思う。埼玉県は新幹線や高速道路もアクセスが良くなってきており、世界にアピールするには十分な要件がそろってきたと思う。メリハリを付けた世界に誇れる大宮公園を本気でデザインしなければならない。
- 長崎県の松浦は閑村で若い人たちが I ターンでも U ターンでも帰ってこない。その漁村の発想はインターナショナルスクールとかアメリカンスクールの生徒を呼ぼう。彼らは日本のいかだ作り、釣り、陶芸などの体験を求めているから、それを目玉にした修学旅行のプログラムを作ろうと近畿日本ツーリストと話して、結果的に成功した。それを考えると、様々な金脈が大宮公園にはある。神社がまずある、そんな気がします。
- 日帰りの観光客数が圧倒的に 1 位だと思う。しかし、宿泊は最下位に近く、宿泊を伸ばすためのテーマをずっと探っている。
- 今、物産観光協会では暮らしの隣にある体験を観光として捉えようと進めている。暮らしの隣にあるという日常と、大宮公園の中のメリハリ、シンとした神社、参道。公園がデザインされることによってファンが増え、インバウンド等の SNS の情報で発信が拡がることで新たな観光客を取り込んでいけると感じる。
- 800 店舗近くある商店街があることがポイントで、さらに買い物ができる大型店がそろっている。あとは神社と参道と盆栽とか鉄道博物館などもあるが、最終的にいつも悩むのは神社、鉄道博物館、盆栽村を結ぶ動線がなく回れない。
- 埼玉県内には秩父などあるが、大宮公園の魅力アップには何があればよいか。法律改正で都市公園の宿泊施設も可能となった。民間のいろいろなものを入れていける。だいぶ自由化され、昔の都市公園のイメージとは異なる。やる気になればやれるようになった。
- 都市公園は今まで厳しかったが、今度は自由化しており、アクティブにいろいろできるが、大宮公園には何が足りないか。
- 絶対無理だと思うが、参道がエントランスになって、氷川神社にチェックインする。そして、日本の本当の旅館が体験できれば相当情報発信されるのではないか。
- 公園というのは明治以降、品行方正で直立不動になり、日本的な楽しい場所を排除した。ある意味でこれからは日本的な日本型レクリエーションの復活はありで、しかも美しくそれができる。

- グエル・パークはガウディの作品だからデザイン。アメリカの都市公園はイベントの利用を積極的に行っており、ファッションショーなどの空間にもなっている。
- デザインでいくのか、市民がアイデアを突っ込んでいろんなことをしやすい、なるべく白地のキャンパスにしておくのか、どちらが観光の観点からすると正しいか。
- 地元の人たちが愛着を持ち、誇りに思っ生活している。そこには世界にも誇れるようなデザインの素晴らしいカフェもある。皆自信にあふれる、そういうデザイン性は必要。
- 事か物か、どちら側が観光的に勝っているか。
- 事のほうが今は勝ちつつある。
- 神社の神事も四季に応じていろいろあると思うが、大々的に充実させ、そして氏子の参加をとことん増やす。大々的にやるということを総合的にプロデュースしていく必要がある。
- 物と事のバランスは大事、何かはあったほうがいい。氷川神社は元旦に皇居で行われる儀式、四方拝により天皇から遥拝される神社ともなっているが、一方でそれを言う機会がない。
- 県と氷川神社と一緒にものをするということはなかったが、昨年、今年と日本文化を世界に発信する取組を行っており、これからは日本の文化を発信するのは大宮公園と氷川神社で一緒にできる。
- ヨーロッパの方は、日本の文化に興味を示しており、神社のイメージと合う。弓道は練習場があれば良い。はかまを外国人は着たいのではないか。
- 大正時代、昭和の初期頃は、大宮公園には料亭があり、芸者遊びをしていた料亭や茶室があり、日本の良さ、文化の発信を神社と共にできると思う。
- 今後、デザイン、夜間景観・ライトアップ、盆栽の活かし方など、たくさんの意見をいただく機会を事務局でも考えてください。
- 大変長い時間ありがとうございました。大変広角的なご議論いただきました。次回もどうぞよろしくお願いいたします。